

Y15b VLBA 閉鎖問題と日本国内での検討状況

輪島 清昭 (山口大理)、今井 裕 (鹿児島大理)、三好 真 (国立天文台)、村田 泰宏 (ISAS/JAXA)、
VLBA 問題検討ワーキンググループ

VLBA (Very Long Baseline Array) は 1993 年に共同利用を開始したアメリカの VLBI 観測網である。これまでに銀河中心の巨大ブラックホールの発見を始めとして多数の科学成果を挙げており、世界の VLBI 天文学をリードする観測装置である。

2006 年に行われた全米科学財団のシニアレビューにおいて、新規大型プロジェクトの推進経費捻出のため既存装置の運用経費の検討が行われた。この中で VLBA に対して、2011 年以降の年間運用直接経費の 50% について海外研究機関による予算措置がなされない場合、2011 年に VLBA を閉鎖する旨の勧告がなされた。VLBA は 'open sky policy' の下、全世界の研究者に開かれた観測網であり、その閉鎖は最高分解能でのサイエンスや他分野との連携の衰退を招くものである。また、VLBA は現状で次期スペース VLBI (VSOP-2) プロジェクトでの全ての観測モードに対応できるほぼ唯一の地上観測網であり、これが失われることによる VSOP-2 プロジェクトでの科学目標達成への影響も甚大である。

VLBA を存続させるためには 2008 年中に予算支援の意思を表明する必要がある。上述の多大な影響と緊急性に鑑み、VLBI 懇談会 (URL: <http://www2.nict.go.jp/w/w114/stsi/vcon/>) の下に設置された本ワーキンググループが中心となって日本国内の意見の集約を図っている。本講演では「VLBA 問題」の経緯と日本国内での検討状況、および今後取り得る方策について紹介する。

なお、「VLBA 問題」について本ワーキンググループでブログを立ち上げているので、併せて参照されたい。URL は次の通り。 <http://vlba.blogspot.com/2007/11/vlbavlbi.html>